

# サードプレイスの意義・あり方を考える

地域政策学部 准教授 宮下聖史

2024年度地域プロジェクト研究1B 宮下クラス受講生10名

## 活動目的

◇今回のプロジェクトは、サードプレイスの意義を体験的に学び、それらを言語化することを通じて、今後の活動の足がかりとなる知見や基盤を得ることを目的としている。

◇本奨励金の選考基準として定める「学生が主体的に課題を発見し、解決する能力を育成する取り組み」に位置付けられるものである。

※今回のプロジェクトの詳しい内容や成果については、後日報告書を発行する予定である。

## 活動内容

◇全体フィールドワーク

川本町 かわもとあそらボ訪問(2014年10月26日)

◇班ごとのフィールドワークとディスカッション



## 活動の成果(抜粋・要約)

### ◇サードプレイスの新しい在り方

乾隆一・岩井陽香

【目的】近年のサードプレイスにはどのような特徴があるのか

【方法】論文講読・あそらボ、山羊コーヒー訪問

【結果】オルデンバーグによって定義されたものに加えて、「自分を認めてもらえる場所」「興味を広げ成長する場所」という特徴がある。

### ◇サードプレイスを広めたい！！

糸川綺華・生越若葉

【方法】大学生対象のアンケート調査、海と森のめぐみCafé訪問

【結果】サードプレイスの認知度が低く、自身のサードプレイスを持っていない学生が多くいる。

サードプレイスにはストレスを軽減したり、より生活を豊かにしたりすることができるといえる。

### ◇バーチャルサードプレイスの距離感について

村上瑞歩・狩集純怜

【目的】サードプレイスの多様化を受けて、バーチャルサードプレイスの実態を調査する。

【方法】大学生対象のアンケート調査

【結果】大学生のSNSの利用は、既知の仲を深めるような要素が強く、相対的にサードプレイスとしての必要性は低いのではないかと。

### ◇サードプレイスは複数あってよいか/複数あるメリット

竹下元・直井遥都

【方法】論文講読

【結果】近年では商業的サードプレイスから創出されたマイプレイス型のサードプレイスがある。加えてコワーキングスペースとして活用されるような伝統的サードプレイスもある。

ウェルビーイングと居場所の数が比例する。

### ◇市町村の教育ビジョンに沿ったサードプレイスをどう作るか

宇山昂輝・榎本祥太

【方法】資料分析

【結果】教育ビジョンに沿ったもの(代表例)

・あそらボ(川本町)、ユタラボ(益田市)

民間団体の活動例

・松江サードプレイス研究会、ユメミルHIRATA、文化のタネ、サクラテラス

### ◇参加学生の声の一部

・一人の時間を大切にできるマイプレイス型やSNSを活動の場として交流するバーチャルサードプレイスなど、様々な形があることが分かった。

・温かい空間だからこそ、「やってみたい！」を考えて、行動することができるのではないかと考えた。

・「そういう考えもあるのか」と印象に残り他人と意見を交換することの大切さを実感しました。